

Gサイエンス学術会議2018共同声明について

Gサイエンス学術会議共同声明とは

G7各国を代表する学術会議が、毎年G7首脳会合に向けた政策提言を共同で行うことを目的として、平成17年(2005年)よりGサイエンス学術会議を開催。

Gサイエンス学術会議では、世界の重要課題に関する政策提言を科学的な見地に基づき協力して取りまとめ、各学術会議から、共同声明としてそれぞれの政府首脳へ提出している。日本においては、毎年、日本学術会議会長から内閣総理大臣へ手交。

Gサイエンス2018共同声明とG7サミットのテーマとの対応

Gサイエンス2018共同声明

「地球規模課題としての北極圏」

北極圏の気候変動の地球全体への影響の解明や、北極圏の持続的活用に向けた科学的調査を推進すべき。

「デジタル・フューチャー」

全ての市民がデジタル社会の恩恵を受ける未来を実現するため、あらゆるデータが適切に取り扱われるデジタル基盤を構築するとともに、これを支える人材育成に取り組むべき。

G7サミットのテーマ

「皆に利益が行き渡るような成長への投資」

「将来の仕事に向けた備え」

「ジェンダー平等と女性のエンパワメントの推進」

「気候変動、海洋、クリーンエネルギーにおける協力」

「平和で安全な世界の構築」



地球的規模課題としての北極圏
～環境変化に対応した持続可能な社会を目指す～

Gサイエンス学術会議共同声明

課題

- ①北極圏の気候変動により、世界各地で環境に影響が及ぶとともに、大規模災害が発生している。
- ②北極圏の生態系に変化が生じ、現地住民の狩猟の収穫量が減少している。
- ③北極航路の開拓や天然資源の開発による環境汚染が懸念される。

提言

- ①北極圏の気候変動の要因や世界各地への影響に関する研究を推進すべき。
- ②現地住民が北極圏の調査研究データを活用するためのプラットフォームを整備すべき。
- ③リモートセンシングと現場観測による環境汚染監視システムを各国間のデータ共有を通じて強化すべき。

対応するG7サミットのテーマ

「気候変動、海洋、クリーンエネルギーにおける協力」

「平和で安全な世界の構築」

デジタル・フューチャー
～デジタル化による社会変革と課題～

Gサイエンス学術会議共同声明

課題

- ①一部の国や社会集団がデジタル革命から取り残され、格差が拡大している。
- ②世界中で膨大なデータが生成されている一方で、虚偽データの存在やサイバー攻撃への脆弱性が課題となっている。
- ③一部のインターネット企業がデータを独占し、収集した個人や外部企業の情報を操作するなど、不適切なデータの取扱いが見られる。
- ④デジタル技能者が不足する一方で、ICTやAIに代替された労働者の雇用確保が問題となっている。

提言

- ①すべての市民がデジタル空間で活動できるようにするとともに、リテラシーを強化すべき。
- ②データ管理の新たなルールを備えたデジタル基盤を構築するとともに、セキュリティシステムを強化すべき。
- ③外部から検証できる体制を構築するとともに、個人や企業が自身の情報を管理できる体制を構築すべき。
- ④政府と企業はデジタル技能者を育成し、新たなデジタル経済における雇用機会を創出すべき。

対応するG7サミットのテーマ

「皆に利益が行き渡るような成長への投資」

「将来の仕事に向けた備え」

「平和で安全な世界の構築」